



# 謹賀新年

山口赤十字病院  
JAPANESE RED CROSS YAMAGUCHI HOSPITAL

地域の先生と山口赤十字病院をつなぐ  
**やまぐちcross**



## 新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかで穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス（coronavirus disease2019：COVID19）の感染拡大が国際交流、社会生活に影響し、さまざまな苦境や問題が表出した「コロナ禍」に明け暮れた2020年が終わり、新しい年がやってまいりました。

昨年はオリンピックや提灯祭りも中止となり、感染拡大による健康不安、不要不急の外出禁止、宴会の自粛等冷え切った中、当院でも今後3年越しの計画となった新病棟ならびに外来部門の改築工事、百周年記念行事の順延等いろいろありました。

このような中にあっても当院は、「患者さん中心の地域連携、あたたかな信頼のおける治療の提供」という理念のもと、

● **組織運営のスローガン**： 志spirit：「人道」、「公正」、「積極性」の日赤精神\*

● **活力源**： 「草莽崛起\*\*」、「明るく楽しく凹まない」の長州魂

● **目指す病院像**： 「患者さん中心の医療」・「倫理」・「安全管理」の整った風通しの良い働きがいのある病院を目指しており、何があってもいかなる時でも地域の皆様に信頼され安心して頼りにしていただける味方であり続けたいと思っています。

社会経済活動と感染防御の両立は困難を極めますが、この1年、3密を避けマスク着用手指衛生を習慣化した新しい行動様式の提案やテレワーク、社会のデジタル化、ビッグデータの感染防御への応用などCOVID19流行の長期化を前提とした前向きな対策も進んできました。治療についても既存の薬の中から有効性のあるものを探索する試みや抗体製剤、ワクチン開発も世界で急ピッチで進められています。その中で当院においては、昨年4月より発熱トリアージ外来を立ち上げ、協力病院として行政・保健所と協働してCOVID19対策に全力で対応しています。

これまで救急医療を含めた幅広い急性期医療を提供し、地域周産期母子医療センター・小児救急医療拠点病院として周産期医療・小児医療や緩和ケアを含めたがん診療に力を入れてきました。9月には、病院機能評価（一般病院2 機能種別版評価項目3rdG：ver.2.0）を受審し、12月には認定されたところです。さらに11月には医療の専門性の向上を図るために、内科を内科、消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科、糖尿病内分泌内科、膠原病内科に細分化しました。



【今回の担当医師】

院長

末兼 浩史（すえかね ひろし）

去年今年は「貫く棒」でつながっていますので、今後も急性期医療を提供するとともに、各診療科の機能を結集して、山口の将来を担う子ども達を守る周産期医療や小児医療を含めた、幅広い急性期総合病院の道を歩みたいと考えています。赤十字の心をもって、良質で温もりのある医療を提供し医療に関わるあらゆる安全管理に最大の努力をし、災害時には、地域の皆様の医療救護活動に努めます。

一方で、中断していた新病棟の建築工事も再開し将来の展望も見えてきました。

今後とも、地域にふさわしい病院の機能分化・連携を推進するため、かかりつけ医の先生や回復期・慢性期を担当される病院、介護施設や訪問看護ステーションとも協力して地域のみんなで手を取り合い、患者さんに継ぎ目のない安心な医療・介護を提供出来るように努力を続けます。今後とも一層のお力添えをお願い申し上げます。

蛭蚓（みみず） 鳴く 順延工事再開へ

逐風を好機とよんで春立てり

#### 日赤精神\*

赤十字の基本7原則は人道、公平、奉仕（積極性）、中立、孤立、単一、世界性となっています。アンリーデュナンが提唱した「人の命を尊重し、苦しむ人を敵味方の区別なく救う」が起源で、日本では創立者：佐野常民と大給恒が1877年西南戦争の折、傷病兵を区別なく救うべく設立された救護団体・博愛社が前身で、使命は「苦しんでいる人を救い、いかなる状況下でも人間の命と健康、尊厳を守る」となっています。7原則のうち、奉仕はvolunteer serviceの和訳と考えられ、志願・積極性の意味を持っていると考えます。

#### 草莽崛起\*\*（そうもうっき）

志を持った在野の人々（草莽）が一斉に立ち上がり、大きな物事を成し遂げようとするを意味する語。幕末に、吉田松陰が民衆主体の改革を望んで唱えた思想として知られています。

